



# 星川だより



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

## 最後の空襲・熊谷 平和展を終えて

倉林洋子



知識しかなかった。その後、退職女性教職員の会で、米田さんと出会い、「熊谷空襲を忘れない市民の会」の活動を知り、集会にも参加してきた。そして、平和を求めて若者も活動メンバーに入り素晴らしい取り組みを知り、会の一員に加わって活動をはじめたばかりである。この間、平和展の成功に向け、仲間と力を合わせて準備をしてきた。

中島飛行機関連の方も多く来場頂いた。あと、大学で卒論に熊谷空襲について取り組む学生も数人来場した。夏休みでもあり、親子連れで来場してお子さんに熊谷空襲について学んで欲しいという方も多く訪れた。「熊谷空襲」について学び、未来に平和の大切さを知り、継承して欲しいと思う。

今回の平和展は、パネル展示だけでなく、イベントも有意義だったと思う。

紙芝居も詩の朗読も、好評であった。詩は、米田さんの体験から生まれたもので、フルートの伴奏もぴったりで、朗読を聞いていて涙が出そうだったと、感想を寄せて下さる方がいた。

イベントの一つ、若者の講演「総動員法と熊谷空襲」齋藤さん、「熊谷空襲の記憶と継承」本多さんの話も説得力があり、未来への継承という意味でも意義深いものであった。今年の四月、熊谷空襲を伝える冊子が、市内の小学生向けの副読本と

して採用され、市内の小学生に届けられたことは、平和への継承として意味が大きいことだと思う。

今夏の平和展の成果の一つは、実際に熊谷空襲を体験したと語る方が数名名乗りを上げて下さったことだ。ある方は、熊谷空襲の体験を話されたときに、「このような話は、今回だけでなく、続けて話して欲しいと言われた」と語って下さった。このような、空襲体験者との新たな交流を通して、熊谷空襲の更なる実態究明に努めていきたいと思っている。

平和展の成果を踏まえ、これから仲間たちと熊谷空襲について学び、平和のため活動をして行きたいと思っている。



平和展実行委員会(菊地 勇、栗原 喜文)、立正大学院地球環境科学研究科地理空間システム学専攻、熊谷空襲を忘れない市民の会の共催で開かれた。

私は、「熊谷空襲を忘れない市民の会」の代表である米田主美さんの熊谷女子高の後輩ということもあり、以前から熊谷空襲に興味を持っていた。熊谷時代は、熊谷空襲について恥ずかしいのですが、星川で大勢の方が亡くなったというくらい

平和展は、六日間で延べ三千九百二十七名の入場者数となるなど、大盛況であった。この数は、何より市民の皆さんが、熊谷空襲という戦争について知りたい、平和を求める気持ちの強さを物語っていると思う。平和展の受付をしていても、関心をお持ちの方から何回も声を掛けられた。今回の平和展に合わせて発行した「最後の空襲熊谷」の冊子も四百部ちかく売れ、来場者の関心の高さを物語っている。

展示内容を、食い入るように読まれる方、体験者のコーナー



体験者の証言映像コーナー



紙芝居(稲村さん)



詩の朗読とフルート演奏(米田さん、佐藤さん)



学生のスピーチ(本多さん、斎藤さん)



バンフルート演奏(江藤さん)



海軍に従軍した画家(藤田嗣治等)の戦争画



熊谷陸軍飛行学校のコーナー

## 医療生協さいたま 3月29日(土) 熊谷戦跡巡回ウォーキングの感想

■はじめて戦跡めぐりに参加しました。貴重な写真が残され、戦跡も保存されていて、参加して良かったと思います。また、戦争の記憶を残す活動が、次の世代の若い人に受け継がれていることに感動しました。

■今、戦争を知らない世代が社会の中心になっているなかで、国の予算をみても防衛費が突出し、年々増えていることが大きな不安です。「戦争は怖い」「絶対に戦争してはいけない」と子どもたちに伝えていかなければと強く感じました。

■「熊谷空襲を忘れない市民の会」が市民と協力して学習や継承活動を行っていることに励まされました。戦争遺跡を守り、広く語り継ぐことは、この先もずっと大事にしなければ

いけないと思います。各地で戦争の愚かさ、むごさを次の世代に伝えていく、息の長い取り組みが広がるように、私もできるだけのことをしたいと思いました。

■戦争のことを身内から聞くこともなくなった歳になりました。報道で耳に入ることが客観的なものばかりです。戦争を知る機会もなく、正直何も知りませんでした。本日は主体的に戦争を考えるよい機会になりました。

■戦争の話を知りたり、資料を見たりして、今まで見聞きしてきたことは何だったのかと、まだまだ勉強が足りない、無知な自分を感じました。日本が戦争する国になつてきていることに反対の声を大きくしなければならぬと思いました。

■熊谷女子高校の門柱や老木、石上寺の戦火で類に火傷の画像など80年前の戦火の跡を目のあたりにして、このような戦いを繰り返してはいけないと痛感しました。戦後80年、身をもつて体験された方々は高齢となられました。どうしても現実は戦いの悲惨なことを自分たちの現在に実感することが乏しい気がします。しかし世界ではウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナのような、武器を手にして戦っている現実があり、傷つき、悲しみのなかにある人々も多数います。身近な仲間たちで関心をもつて学び、語り合い、意識を深めていくような活動があちこちで広がると良いと思いました。あいにくの風雨の天候のなかでのウォーキングとなり、道中楽しみに参加された方々との和やかな会話もままならなかったことが残念でした。また晴れた日にぜひ

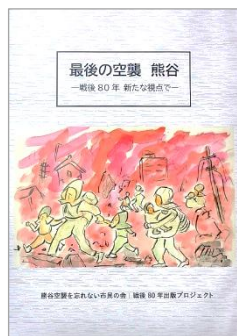
開催していただきたいと思います。

「最後の空襲 熊谷 —戦後80年 新たな視点で—」を販売します。

希望の方は、下記連絡先またはメールでご注文下さい。

送料込み 1,000円

本冊子は一般書店では販売していません。熊谷市市民活動支援センターには置いてあります。



### 会計報告

(2025/4/18~2025/8/19)

|    |         |
|----|---------|
| 収入 | 0円      |
| 支出 | 33,249円 |
| 残高 | 70,698円 |

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、米田主美  
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)  
メール imajn241@gmail.com  
HP <http://www.peace-kumagaya.org>



多くの方々に、平和のメッセージを書いいただきました。